

次期南部圏域振興計画(案)～「四国の右下」創生計画～の概要



現状・課題

- 切迫する南海トラフ巨大地震
 - ・今後30年で70%程度の発生確率
 - ・南部圏域で死者1万人超、避難者約6万人
 - ・頻発・大型化する風水害への対応
- 南部圏域の過疎高齢化、人口減少問題
 - ・南部過疎地域の高齢化率40%超(45.5%)
 - ・限界集落・極点社会の進行
 - ・人口減による地域の低迷
- 基幹産業である農林水産業の活性化

目指すべき将来像・取組方針

- 「安全で」「住みやすく」「あたたかい」持続可能な地域づくりを目指す
- つながり、支えあう (絆)
 - まもり、伝える (継承)
 - 育て、生み出す (創生)

創生と好循環

四国の右下人口ビジョン

現状分析

- 現在の人口 (H27.6.1推計人口) 約10万人
- 2060年の人口 (社人研) 約5万3千人

将来の目標

- 2060年に「約7.5万人～8万人超」の確保を目指す

課題解決のための基本戦略

- 1 安全・安心して暮らせる地域づくり
 - (1)南海トラフ巨大地震や頻発・激甚化する風水害などの災害対策の強化
 - (2)誰もが安全・安心できる暮らしの確保と向上
- 2 県南ならではの産業による地域づくり
 - (1)もうかる農林水産業の推進
 - (2)ひとと環境に優しい産業振興
- 3 交流がひろがる地域づくり
 - (1)圏域の自然とその恵みの体感による観光振興
 - (2)「四国の右下」ファンづくりによる交流人口の拡大
 - (3)地域交通体系の整備促進
- 4 自然とともに歩む地域づくり
 - (1)美しく豊かな自然環境の保全と利活用
 - (2)自然エネルギーの利活用
- 5 支えあい次世代につなぐ地域づくり
 - (1)ひとを呼び、育む地域づくり
 - (2)まちを創生し、次世代につなぐ地域づくり

基本戦略に基づくアクションプラン「課題解決プラン」

- 具体的な施策について、達成度の目安となる「成果指標」を設定
- 計画推進評価部会による点検 [PDCAサイクル]

課題解決プランの概要

1 安全・安心して暮らせる地域づくり

(1) 南海トラフ巨大地震や頻発・激甚化する風水害などの災害対策の強化

ソフト施策の推進

- 震災時の「死者ゼロ」を目指した取組みの推進
 - ・防災講座等により防災意識を向上し、即避難対策を徹底
 - ・健康に配慮した避難所運営訓練などの「助かった命を守る」取組みを普及拡大
 - ・自衛隊ヘリによる夜間搬送訓練など、関係機関と連携した防災訓練の実施
- 「那賀川事前防災行動計画(タイムライン)」を地域住民に周知し、大規模水害の被害を最小化



避難所運営訓練

ハード施策の推進

- 那賀川の河川整備等の推進（那賀川再生推進プログラム）
 - ・長安口ダムの改造
 - ・和食・土佐地区、深瀬・加茂地区等の河川整備
- 陸閘・樋門の自動化や統合、堤防等の地震・津波対策を推進



長安口ダム改造



大浜海岸防潮堤

主要業績指標

- 防災講座等の受講者数
②5 23,115人
→ ③0 51,000人(累計)
- 長安口ダムの放流ゲート新設
②5 工事中 → ③0 完成
- 那賀川和食・土佐地区の床上浸水対策特別緊急事業の推進
②7 事業着手 → ③1 完成

(2) 誰もが安全・安心できる暮らしの確保と向上

災害医療を含む地域医療の充実・強化

- 医師不足に対応するため、南部圏域の公立病院が一体となった医療提供体制(海部・那賀モデル)を構築
- 県内3大学からの学生実習を受け入れ、災害医療・看護に重点をおいた臨地実習を実施



新海部病院

健やかに暮らせる保健・福祉・医療等の連携体制の充実・強化

- 医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される「地域包括ケアシステム」を構築
- 地域における高齢者支援の充実を図るため、認知症サポーターを大幅に拡大

子どもや女性など、みんなが安全、安心して暮らせる地域づくり

- 阿南市配偶者暴力相談支援センター等の関係機関と連携し、DV対策を強化

主要業績指標

- 南部圏域の公立病院が一体となった医療提供体制(海部・那賀モデル)の構築
②7 着手 → ③0 構築
- 災害医療・看護に重点を置いた臨地実習受講者数
②5 - → ③0 200人(累計)
- 認知症サポーター数
②5 788人
→ ③0 10,000人(累計)

2 県南ならではの産業による地域づくり

(1)もうかる農林水産業の推進

世界にはばたく農畜水産物のブランド化・6次産業化の推進

- 次世代施設園芸の推進(きゅうりタウン構想・次世代トマト生産システム)により新規参入・移住就農を促進
- 「木頭ゆず」や「阿波尾鶏」の一層の販路・輸出の拡大を図り、更なるブランド化を推進
- 海部水産物のブランド化、6次産業化の推進、藻類養殖の本格導入



木頭ゆず



きゅうりタウン構想

「森林大県・徳島」を牽引する林業の推進

- 「山武者」等と連携し、大学・高校生の就業体験による新規就業者を確保
- 「とくしま林業アカデミー県南実習地」を拠点として、即戦力となる林業従事者を育成
- 主伐後の再造林による森林資源の保全と循環型林業の展開



高性能林業機械

主要業績指標

- きゅうりタウン構想による
年収1千万円超の戸数
⑲ → ⑳20戸
- 農畜水産物の輸出量
⑲10t → ⑳30t
- 県産材の生産量
⑲13.6万m³
→ ⑳20万m³

(2)ひとと環境に優しい産業振興

資源循環型農業の推進

- 海部産の有機質肥料(かいふエコ肥料)を活用し、耕畜連携による循環型農業の推進
- 圏域において生産された飼料用米を阿波尾鶏に給与する地域内流通システムを構築

地域の資源を活かし育む取組み

- 南部圏域の素材を活用した南阿波グルメを開発促進し、PRを強化することで、販売を拡大
- 平時・災害時にリバーシブルに活用できる「阿波尾鶏」加工品の開発推進



防災備蓄食品

LEDを核とした産業の振興

- 省エネルギー対策のため、道路照明灯や防犯灯のLED化を推進



LEDドーム

主要業績指標

- 資源循環型農業の取り
組み農家数
⑲155戸 → ⑳1,000戸
(4年間累計)
- 南阿波グルメの販売金額
⑲1,500万円
→ ⑳5,000万円
- 平時・災害時リバーシブル
に活用できる「阿波尾鶏」
加工品の開発数
⑲2商品 → ⑳8商品

3 交流がひろがる地域づくり

(1) 圏域の自然とその恵みの体感による観光振興

豊かな自然や歴史文化を活かした体験型観光の振興

- 「四国の右下」の魅力を体感できる着地型観光商品の開発
- 南阿波グルメやアウトドアスポーツを融合させた体験型観光の推進
- 企業、大学等のスポーツ合宿誘致を推進



南阿波よくばり体験

世界に誇るアウトドアフィールドの提供

- 関西ワールドマスターズゲームズ(WMG)の競技誘致
- トップアスリートプロデュースによるアウトドアスポーツイベント開催
- 「アウトドアスポーツの楽園」を世界に発信



うみがめトライアスロン

主要業績指標

- 着地型・体験型観光による入り込み客数
②5ー → ③010,000人
(4年間累計)
- 南部健康運動公園陸上競技場の整備
②7事業着手
- 世界に通じるアウトドアスポーツイベント数
②5ー → ③06スポーツ

(2) 「四国の右下」ファンづくりによる交流人口の拡大

「四国の右下」の効果的な魅力発信・新たな魅力づくり

- 「四国の右下」の食をはじめ、地域特産品の販売・PRする「まけまけマルシェ」の開催
- 食やイベントなどの地域情報の一元化、発信力強化
- 「道の駅日和佐」の機能強化と周辺施設の「サテライトステーション」化



まけまけマルシェ

主要業績指標

- 「四国の右下・まけまけマルシェ」等による集客数
②5ー → ③040,000人

(3) 地域交通体系の整備促進

高速道路、地域高規格道路等の整備促進、地域交通の確保

- 四国横断自動車道、阿南安芸自動車道の整備促進
- 国道55号阿南道路の4車線化など主要幹線道路の整備促進
- 国道195号出合大戸バイパスや海部病院の高台移転にあわせた日和佐牟岐線の整備推進



(仮称)新那賀川橋

主要業績指標

- 四国横断自動車道(小松島～阿南)
②5工事施行中
→ ③0工事促進中

4 自然とともに歩む地域づくり

(1)美しく豊かな自然環境の保全と利活用

地域の環による自然保護活動と利活用

- ビーチコーミングなどの海からのめぐみを活用した持続可能なまちづくりの推進
- 「千年サンゴ」の保護活動の強化と利活用による地域活性化
- 環境や防災面で重要な森林の公有化を推進



ビーチコーミング



千年サンゴ

鳥獣害対策の推進、野生生物の適正管理

- 侵入防止柵やモンキードック育成など集落ぐるみで取り組む総合的な鳥獣被害対策の推進
- シカ肉の供給システムの改善、加工商品の開発・ブランド化
- 初心狩猟者研修会への講師派遣や広報活動による狩猟者の確保



シカ牧場

主要業績指標

- 「海からのめぐみ」を活用したまちづくり参加者数
②5ー → ③01,300人
- 公的管理森林面積
②5850ha
→ ③03,000ha
- 集落ぐるみで鳥獣害対策に取り組むモデル集落数
②5ー → ③010集落

(2)自然エネルギーの利活用

自然エネルギーの「宝庫」の利活用

- 未利用木質資源等を活用したバイオマス発電の促進と木材の供給体制整備
- 豊富な太陽光を活用した、「持続可能な漁港」の実現
- 自然エネルギー活用の大切さを啓発する環境学習の拠点施設整備



バイオマス発電所(イメージ)

災害に強い自立・分散型エネルギーの推進

- 移動式水素ステーションを整備
- 県及び市町の公用車を次世代エコカーに更新
- 次世代エコカーより電力の供給を受けられる防災拠点等の整備推進



移動式水素ステーション

主要業績指標

- 木質バイオマス発電
②5ー → ②86,000kw
- 川口ダム自然エネルギーミュージアムの整備
②5ー → ③0整備・活用
- 防災拠点や避難所への次世代エコカーによる電力供給の取組市町数
②5ー → ③01市4町

5 支え合い次世代につなぐ地域づくり

(1)ひとを呼び、育む地域づくり

移住・定住の促進

- 「『四国の右下』若者創生協議会」を設立し、若い世代の移住・交流施策を戦略的に推進
- 新たなライフスタイルやワークスタイルの提唱によるサテライトオフィスの誘致拡大
- 市町と連携して「移住コーディネーター」の配置を促進
- 市町と連携し徳島版CCRCを推進



サテライトオフィス(あわえ)

農林水産業をはじめとする地域産業を支える担い手の育成

- 「かいふ新規就農者支援システム」による新規就農者のサポート
- 林業インターンシップ「山武者塾」による林業従事者の確保
- 「あまちゃん」体験漁業を通じた漁業への就業促進



山武者塾

若い世代の結婚、子育てを支える地域づくり

- 認定こども園の設置促進
- 病児・病後児保育を促進
- 地域の特色を活かした婚活イベントに取り組む市町を支援



認定こども園

主要業績指標

- 45歳未満の移住者数
②526人 → ③0100人/年
- サテライトオフィス誘致企業数
②56社 → ③030社
- 農林水産業新規就業者数(4年間累計)
②534人 → ③0220人
- 認定こども園設置数
②54箇所 → ③014箇所

(2)まちを創生し、次世代につなぐ地域づくり

ひとが輝き、まちを支える地域づくり

- 地域おこし協力隊の活動を支援し、地域力の維持・強化を促進
- 大学や建築士会等と連携した、空き家・遊休施設の利活用の推進
- 障がい者が高齢者に対し、日用品等の移動販売や見守り活動を実施



大学生による建物調査

地域で広がる学びの場づくり

- 産業人材の育成を図るための「先駆的モデル」として、県立那賀高校へ「森林クリエイト科」を設置
- 小中高等学校の児童・生徒を対象とした「森林・林業体験学習」の実施
- 南部圏域をフィールドとした県内外の大学生による研究・実習の充実・強化



中学生の林業体験

主要業績指標

- 大学と連携した建物悉皆調査地区数
②5— → ③08地区(累計)
- 南部圏域でのフィールドワーク参加大学数
②54大学 → ③012大学